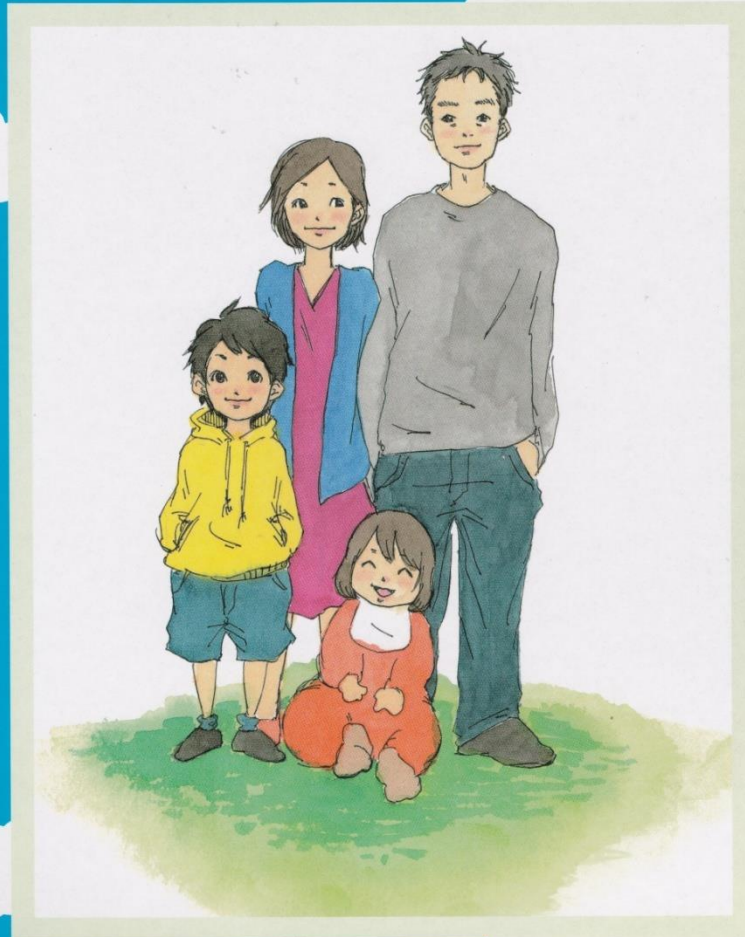


やくそく

さく かみやま ゆかり
作：神山 由香理

絵：加島 吏也

監さく とちき 敏
制作：栃木県





ぼくは、おかあさんが だいすきです。



ぼくの おかあさんは、うたを うたうのが
だいすきです。

ころころ ちりりん。

おかあさんの うたは、

ちい小さな すずが なっているみたいで、

きいていると ぼくは、

とても しあわせな き気もちに なりました。



ところが、ある^ひのこと、
すずの音^ねのようだった おかあさんの ^{こえ}声が、
かすれて しまいました。
かさかさ かさかさ。
まるで おちばを ふんでいるみたいです。
^{たの}楽しかった うんどうかいが おわり、
ようちえんの イチョウの ^き木が
きんいろに そまったころの ことでした。
「わるい かぜに かかって しまったわ」
おかあさんは そういって、
びょういんへ ^で出かけて いました。



びょういんから ^{かえ}帰ってきた おかあさんは、

なんだか とても かなしそうでした。

「おかあさん、どうしたの？」

ぼくは たずねました。

「おいしゃさんに、にゅういんして からだの なかを

よく しらべて みましようと いわれたの」

おかあさんの ^め目から なみだが

ぽろりと こぼれおちました。



おかあさんの びょうきは、肺がん^{はい} でした。
がんは、おかあさんの からだの あちこちに
ひろがって いました。

おとうさんは、しごとの かえりに
にゅういんしている おかあさんに
まいにち^あ 会いに いきました。

おかあさんの おみまいから^{かえ} 帰ってくると
おとうさんは、夕ごはんも^{ゆう} 食べずに、ただぼんやりと
こたつに すわって、タバコを すっていました。
おじいちゃんも、おとうさんと いっしょに
タバコを すいながら、
ときどき おかあさんの びょうきについて
はなしているようでした。



^{にち}日ようびになると、ぼくと いもうとは
おとうさんと いっしょに
おかあさんの おみまいに いきました。
おかあさんは、とても
ぐあいが わるそうでした。
おかあさんの かみの毛^けは、
^{こう}抗がんざいと ^{ほうしゃせん}放射線ちりょうで
ぜんぶ ぬけてしまっていました。





ぼくたちは いちどだけ

^{くるま}車イスに おかあさんを のせて、

いっしょに びょういんの ^{にわ}庭を さんぽしました。

さくらが まんかい でした。

ぼくが さくらの木の下に ^き^{した}^{くるま}車イスを おしていくと、

おかあさんは うれしそうに ^{そら}空を みあげて

ほほえみました。

ぼくは とても うれしくなって、

はやく おかあさんが たいいん できると いいなあ
とおもいました。

でも、おかあさんは にゅういんしてから
いちども 家に 帰^{かえ}っては きませんでした。
おかあさんは ぼくたちが 会^あいにいっても、
びょういんの ベッドで
ねむっていることが おおくなりました。
目^めを さましているときも、
おかあさんは いつも
ゆめのなかに いるみたいでした。



いっしょに お花見の ^{はな み}さんぽをしてから、

^{な の か め}七日目の ことでした。

「^め目が さめたら、また あえるわね」

ぼくたちに そういつて、

おかあさんは ^め目を とじました。

そうして そのまま、

おかあさんは にどと、^め目を さまसानかったのです。

ぼくたちを のこして、

おかあさんは ひとり、

^{てん こく}天国へと いってしまったのです。



この春 ^{はる} ぼくは ^{ちゅうがく せい} 中学生に なりました。

おかあさんは タバコを すわなかったけれど、

ひとの すっている タバコの けむりでも

^{はい} 肺がんなどの びょうきになることを、

^{がっこう} 学校で おそわりました。



おかあさん

ことしも さくらが きれいに さいているよ。

おかあさん

ぼく やくそく するね。

ぼくは ぜったい タバコを すわない

おとな
大人に なるよ。

